

ごみ減量市民会議の活動に係る意見まとめ

○令和2年度の活動事業計画について

1. 自治会懇談会について

- ・自治会懇談会は要望があった自治体にだけ行うのではなく、全自治体に対して行政（ゴミ減量市民会議）が、懇談会（説明会）を行いたい旨を通知して期日（例えば1か月以内）を定めて積極的に開催すべきである。1週間に1度はいずれかの自治会と開催すべきである。これまでの開催頻度では何年たてば終わるかわからないし行政が本気で減量に取り組む姿勢は見られない。これまで行われた懇談会では、常に同じ論点が出ている。即ち、「廃プラの分別方法」であり「ミックスペーパーの内容」である。多くの市民に「ごみの減量の真意とその方法」を理解し、実施してもらうにはとてつもない労力と根気が必要であることを自覚すべきである。
- ・自治会懇談会だけが市民に対する活動ではないのは勿論であるが、市民と直接向き合っ問題点を探り出し、討論を重ねることが「ゴミ減量」につなげる有効な対策であるのは間違いない。と思われる。地道な継続的な取り組みが必要である。

2. キーロ啓発活動について

- ・キーロ啓発に関しては、イベント開催中交代で次のような進め方を考えてはいかがでしょうか。
 - 1、実物容器の展示
 - 2、手順がわかる説明と写真の掲示、あるいは動画の映写
 - 3、ごみ減量効果や、実践事例の説明

3. その他

- ・ごみ有料化が実施されてから5年経過した。この間、制度上の運用方法や、市民からの要望があった点を踏まえた改正が随時行われてきたことは高く評価すべきである。しかし市民全員に例外なく影響を与えることになったこの制度が今まで一度も制度を運用する行政において検証が行われないのはなぜなのか？随時見直しているからする必要がないのだろうか？ 制度の在り方・運用・改善すべき点等々、全般的に制度開始時点に立ち戻って検証すべきである。これをすることによって、市民にとって「より優れた制度」となり、正しく理解を得ることが出来れば「ごみの減量」の最短の道となる。「減量」の言葉だけにとらわれず、制度が正しく理解してもらうことが「減量」の根本と考える。条例で決められたからとの姿勢で市民が従うだけでは、本当の制度の有効活用は望めない。
- ・減量会議では、各種の対策、活動に要する「コスト」には触れられてこなかった。何をするにも費用は必要である。費用を度外視して、また費用に触れないで活動を進めるべきで

はないから常に「コスト」も検討すべきである。

- ・有料化によって、約1億円の新たな税収が生まれている。この使途も議論の対象にすべきである。減量会議だからと言ってこの財源の使途について議論すべきでないということにはならないのではないかと。多くの市民も大いに関心を寄せていることを無視すべきでない。
- ・ごみ減量の目的は、焼却炉の延命と環境モデル都市としての姿勢を示すことと認識していますが、更に踏み込んだ「環境モデル都市として、子孫が地球温暖化でひどい目に合わないために、CO₂の削減に向き合うことを掲げ、市や市民として取り組めることをごみ削減を議論の入口として取り組んで見てはいかがでしょうか。
- ・鹿児島市のし尿処理場余剰汚泥の処理施設は、鹿児島市和田町にありお願いをすれば見学は可能です。また、鹿児島まで行くには費用が掛かるので腰が引けるようであれば、鹿児島市の技術を使った処理施設が名張市に有ります。前々課長の吉川さんと見学に行きましたが、お立場が替わった後だったので、意見として反映されなかったと思います。この施設は主に汚泥の処理をしていて、処理能力を超える汚泥を受け入れているようで、鹿児島市の施設に比べると臭気があります。ことらも鹿児島に連絡すれば、見学可能です。
- ・活動計画について目論見（目標）をたてて結果を検証することが必要と思います。
- ・焼却で大きなもの生ごみ、使用済みおむつ、落葉、剪定枝などの資源化の検討が必要と思います。
- ・アマタ株が「ごみ出し」コミュニティ事業を始めたが、生駒市民としてごみ減量に取り組んできた私には何の情報も提供されなかった。
市の取り組みに不信感を持ちます。市民協働のあり方をどう考えていますか。
ごみ減量市民会議の活動は市が進めるアマタの活動と関係がないということでしょうか。

○令和元年度の活動について

1. キューロ啓発活動について

- ・ごみ処理機器について様々な啓発活動やフリーマーケットにおいて「キューロ」が重点的に紹介されてきた点は特に問題はないが、ごみ処理機は「キューロ」だけではない。他の各種処理機器を同時に紹介してはと思われる。また、同時にそれらの器機に対して、市が行っている補助金についてPRしてはどうか。
- ・キューロ啓発活動や自治会でのごみ減量懇談会など全体に与える影響はスピードが遅く大きな成果を期待できないと思います。スピードアップが必要であり、目標の設定、結果の検証が必要と考えます。

2. 自治会懇談会について

- ・キエーロで生ごみを削減する取り組みは、自治会への説明等で浸透しつつありますが、あすか野のような巨大自治会では、他の自治会と同レベルの説明では高々班長さんに説明する程度までしか浸透せず、普及には程遠い状態です。自治会に説明することを、自治会のサイズに合わせて回数を増やすとか、自治会員にまでキエーロを知って貰えるような説明が必要ではないでしょうか？あすか野は高齢者比率が高く、環境フェスタを覗きにくる人も少ないように思います。環境フェスタでアンケートをして、知っていると答えてくれた人の数が多く出ても生ごみ減量が進まないのは問題意識を持っている比較的若い人が知っているため、問題意識が薄く、昔はこんなことしなくても良かったのに、税金の二重取りと不満を言っている人たちをターゲットにした説明会も必要なのではないでしょうか。